WASON
HQ
1104
J74+

THE WOMAN'S MAGAZINE.

Dec. 188·
no. 8

明治二十年十二月十日刊行

毎土曜日發兌
一冊正價五錢
府內無郵送稅

女學雜誌

第八十八號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 88, December 10th, 1887.

第八十八號

EDITORIAL:—On Remarrying, Widows and Old Maids: No. II.

LEADING ARTICLES:—Secret of Well Dressing and Use of Cosmetic, by Rev. K. Kimura; A View on the Moral Education in the Grammar School: No. IV., by Senator H. Kato.

MISCELLANIES:—Blessed are the Pure in Heart; Moral Anecdotes: A Widow's Lamp; Komei and Souso; Stove; Cold.

BIOGRAPHIES:—Prascovia Lopouloff: No. IV.; "B," an Eminent Lady.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

●社説　再嫁、寡婦、及老孃(第二、寡婦の安身立命)

●論説　德育に付ての一案(加藤弘之)○金屋の秘訣(木村熊二)

●叢話　心の淸きものは福あり○道話二則○(寡婦のランプ、人に長たるの德)○ストーブ○寒冒

●傳　サイビリアの女傑○ビー夫人傳

●寄書　文苑(鈴木弘恭大人撰)○女子の高等學及女醫(松井康)○女權伸張方よ付ての來狀(中井生)

●新報　三十件

●珊瑚の珠　(第四十五回)

○米國婦人禁酒會々頭ウイルラルド孃曰く余嘗て立身篇を女生の前に朗讀したり然るに立身篇中婦女に關するところ少く女生は皆な大呼して妾等は如何に爲すべきやと問へり

○近代英國著名の女賢エリザ、フレッチヤー曰く願くは毎朝起出る時「今日耶蘇を望みつゝ耶蘇と共に耶蘇の爲に働らき申したし」との考を以て起出で而して毎夜床に入るときは「あゝ吾が古鄕に近く一日の程を了りたり」との考を以て打伏したしとあり

○ゼチヂハーバート感謝して曰く主よ爾が吾々の周りに備へ玉ふ注意の至れる哉父母吾等を育くみ師匠吾等に律法を敎へ以て吾を道理界の規則中に納る

○シエークスピア歌つて曰く女子の美艶なるは未だ能はず其の信切なる心即ち吾が愛を惹くべし

○夫に別れたる妻はやるかたなく悲しきまぎれに髮を切り又は尼になりて墨染の衣に身をやつし或は尊き上人にあひて袈裟をゆるされ或ひは殊勝なる長老に近づきて五重相傳をうけ又は東雲和尙に賴みて掛絡をかけ道心一扁になりて寺參り後生だてをして數珠つまぐる　(堪忍記)

女學雜誌第八十八號　明治二十年十二月十日

●社説

○再嫁、寡婦、及老孃

（第二）寡婦の安身立命

夫れ寡婦にして懶惰に習ひ人の家を周り遊びたゞ懶惰なるのみならず妄りに人の風評を言ひ好みて人の事に關はり言ふべからざるとを言ひ胸の慾情すでに燃へて自ら制すること能ハざるが如きものあり然るを何は習慣の繩の縛する所となりて斷然公けに兩夫に見ゆるの勇なく而かも隱密に其思ひを寄せて淫れたる聞を生ずるが如きことありたらんには元來道を行ふことを主意として反つて大なる不貞節の罪に墜落し所謂る寸の直きを守らんとして遂に尺の曲れるに陷るものなり、故に始めより孔子の敎に縛らるゝか習慣の行掛りに制さるゝか若しくは只だ名譽を尊ぶ人情に動かされて以て內心の慾情を制し漸くにして一生再び嫁せざることを決斷するが如き輩らは成るべく早く思を飜へして自由淡泊に再嫁することを好しとす。次には亦た夫を先立て諸行無常の理りを觀じ倩ら〱物を案ずれば娑婆の榮花は夢の夢人身は稟がたく佛敎には遇がたし老少不定は出入息も待べからず蜉蝣稻妻よりも猶ほ墓なしと大悟し之より香を燒き茶を煎じて讀經念佛に殘生を送らんとするが如きものは俗眼より之を評するときハあつぱれの後室とも見へなん然れど吾人を以て之を論ずるときは尚ほ其の至らざる所ろあるを覺ゆるとなり。抑も人生は吾々一人の世間にあらず或は一家族となり或は一國民となりて男女老幼とも〱に各自の義務あるものなり故に心を屈し思を窮屈にし制しがたきの情を辛うじて制御し漸く以て不都合なく人生を渡り行くが如きは之は或は其當人一已に可もなく不可もなきの生涯と云ふべし然れども未だ全く其人たるの義務を盡し得たるの處置とは云ふべからざるもの也。之を以て無効の習慣は悉く之を破り世を厭へる果敢なきの恨は全く之を散じ速に再嫁して去るものゝ憂を日々に疎くし再び爽快々活の細君と爲つて一家を理め能く其の第二の夫を助けて世に對するの務を盡さば此れ決して後室後家なるものゝ能く及ぶ所にはあらざるべし。セヂチイリチットはクロッス氏に再嫁して復び亦た一旦失ひたるの樂を取回へせりと傳しテーロル夫人はミル氏に再嫁して遂に女權擴張の明著を出さしむるに至りき思ふに頭髮短く顏色青く蹌々踉々としてあじきなき世を送

る寡婦等を導き之をして早く再ひ嫁せしめんには天下幾多の不幸なる女流は之が爲に樂を回復するを得べきか、亦た年少すでに世を捨てゝ尼法師に落飾れ身を嵯峨野に密めて當今の形勢に頓着せざる後室等を促し之をして斷然速に世に還へらしめんには天下幾多の男子は之がために好き逑を得らるべきか、共に尤とも惜しむべきものと云ふべし。左れば吾人は世の寡婦諸君が喜んで兩夫に見ゆるの勇氣を出し玉ふあらんとを切望して止まざるものあり。

然れども吾人は敢て之を强ゆるにあらず、亦た何如なる寡婦の方々に對しても殆ど同一に之を勸告するが如き者にもあらず、實は孔教佛教の習はしに縛られて押してやもめの暮をなすもの若しくは殆んど世を觀じて尼とならんとするが如き方々に對してのみ申すと也。故に吾人は世に寡婦の存することを嫌はずして寧しろ眞の寡婦の多く存せんことを望むものとは雖ども右に云へるが如き兩種の寡婦の存在するを見るときは未だ曾て慨然として歎息せずんばあらず、即はち一は其當人のために悲しみ一は今の國家のために悲む然れどもかの眞の寡婦は其心左程の憂なきが故に吾人そのために之を悲しむに及ばす其處置國家に効能の多きが故に吾人亦世の爲に之を悲むを要せざる也。

然らば眞の寡婦とは果して何如樣の人を云ふ乎曰く寡居の安心立命の地を得たるの人あり、吾人嘗て後室某夫人を訪ふに夫人容貌温乎たり顏色澤々たり音聲春の鳥の如く擧動夏の花の如し夫死するの後ち數月悲歎無限にして雲霧常に霽れざりしが如く見られぬ而かも今まは殆んど其前日と異るなく恰かも郎君と起居出入を共にし讀書勉業を共にし食卓の上煖爐の傍に於て琴瑟悟樂ありたるの昔しに均し、吾人之を奇しみ一日雨蕭々たるの時密に之を問へば夫人則ち憮然として長歎し前壁に弔るしたる亡夫の大寫眞に指して云く郎君彼處に座はすそも〳〵妾もし夫すでに居まさずと思はゞ何如んぞ一日として憂なかるべきや只郎君の肉は滅して影なし然れども妾が此の心は常に郎君を思ふて郎君と起居出入讀書勉業を共にし則はち今ま一人にて暮らすとは思ひ侍らずとなん聞ゆ、嗚呼愛深き眞の寡婦は夫れ此に在る哉夫すでに死せるか云く死せり死すれば則はち再び適くべし然れども夫の肉すでに死して心中の夫未だ死し玉はず如何にしてか再嫁するの心あらんや如何にしてか世を捨てゝ夫の遺したる事業を放棄するに忍びんや子或は孫あらば彼等まづ己の家に孝を行ひ其親に恩を報

ひ惟だ神に倚り頼み夜も晝も願ひ求とめて祈禱を常にし以て國家に盡すの務を行はんとす。

故に吾人は必ずしも寡婦に再嫁を强ゆるにあらず大凡そ眞の寡婦にして其の安心立命の地に確立し能く安んじ能く樂んで國家に盡すの義を棄てざらんものは寧ろ籍に錄されて敬わるゝの寡婦となり貞節を保ち且つ人の益を計りて以て殘生を送られんことを希ふ思に若し斯の如くならば寡婦の勢力なるものは亦眞に驚くべきものと爲るべし。

之を以て孟子、歐陽脩、正成、金時等の母は何も寡居して能く其子を敎育し或は之を聖賢にし或は之を勇士豪傑にしたり斯の如くナポレオンボナパートの母レーチヽア夫人は四十五年間寡居して遂に佛の大皇帝を造り出しゼウヂワシントンの母マーリー夫人は長子十一才の時に夫を先立てゝ後ち獨り諸子を敎育し遂に米の大統領を養成したり此外大敎師ウェスレーの母または哲文の學宗エマソンの母の如き何れも皆な寡婦の身を以て能く其子を名家と爲したるもの也。更に亦た當今女流社會の大運動に率先さるゝ婦人方を見るに寡婦にして最も大切なる地位を占めらるゝもの甚だ多し、先づ英國に於て女權伸張の事に盡力し其名の各國に聞ゆるはフホセット氏の遺妻フホーセット夫人あらん、万國婦人禁酒會の會頭と爲つて全世界の酒害を禁止せんとさるゝものは政事家ブライト氏の姉妹にして一旦他に嫁し夫死するの後ち引續て本族の名を稱せらるゝブライト夫人あらん、而して此の万國婦人禁酒會の遊說員と爲つて先年我國に渡來し今まや殆んど坤輿を一周して來年米國に歸着あらんとするレビット夫人は寡婦にあらずや、現に當今我國に來つて盛大なる女學校を開き數多の女生を敎育して一意道の爲に盡力せらるゝの洋婦人中主もに其の卒先者たる者は亦寡婦の方々を多しとするにあらずや」蓋し如此き有爲の寡婦諸君甚れだ多かるべし最愛の夫既に逝て心中の郞君常に在ます故に固より他に再嫁するの情なくして亦た世を棄つるの愚を學ばず即ち全心全力を國家の事に輸して以て殘生を淸くすと云ふ之れ實に眞の寡婦たるもの安心立命の地と爲すべき所ろなるか世上必しも寡居せんとを欲せらるゝの姉妹は則ち希くは此の一事を記臆せられんとを。

● 論說

○德育に付ての一案（第四）　加藤弘之

今三のことを概略申しましたが夫れから先刻御話しした愛他

心は皆元ハ愛己心から出て來たもので一躰此愛己心か人間の固有の愛といふ事を。まだ說ないから御話しヽます。私か鳥渡思ふに第三番目ばかりが愛己心から出た樣に思はれますけれども皆同しことで第一の自然能的愛他心は人の事を人の事と思はす自分の事に思ひ人に喜ひかあれは自分か喜こび人か悲しめは自分か悲しむ他人に喜ひかある樣にしたい。と云のは他人の喜ひを見て自分か喜ひを見る樣にし他人か悲しみのない樣にしたいといふのは他人の悲しみを見ない樣にしたいといふのであります夫たから裏を見れは愛他心か分ります又道義的愛他心は有り難い恐しいといふ本尊樣かあッて出て來る愛他心でありますから有り難い恐ろしいものを敬すれは仁人君子他人に慈悲を掛くれは仁人とか善をすれは善い人とか惡い事をすれは惡人とか善い事をすれは其不思議の本尊樣か賞し惡い事をすれは罰を受ける夫れたから善人になろう君子になろう忠臣になろうといふ心持て人を愛する夫れたから又た裏に這入ッて見ると皆自分の爲にしようと思ふ。夫れたから裏に這入ッて見れは愛己心になる昔の宗旨を立てた敎祖とか聖人とか君子とかいふ者は人間に愛己心といふことがあるといふことを考へて愛己心を道具に使て敎を立てたので能く人の性に依て敎を立てた愛心を使ッて人を愛させる敎を立てた若し今裏を敎て孝悌忠信を盡せバ惡い人になる他人に慈悲を掛ければ小人である惡人であると云へは誰れもそんなことをする人はない夫れは自分か惡るくなるから自分を惡るくする敎なれは誰れもする人はない自分をよくするといふ元かあるから敎へに從ふ夫れたから之れも內に這入ッて見れは愛己心のある愛他心夫れたから第三の愛他心は愛己心から起て居るとは前に申しました通り。そうすれは人間は皆愛心ばかりて居た斯う三ッに分けましたが人々に働いて居るから今日の演說て盡すことは出來ない大躰の道理たけ御話しヽます。そこで是れ丈けて今の哲學上の道理て愛他心の事を說いたので時かないから。ごく簡單にするより外に仕方かないそこで元來今の德育は宗敎でなくてならん道理か今の道理から出て來そこで德育といふものは。なんだといふと德育には第三番目の道德敎的愛他心之れか今日演說する所の德育は即ち是れだ此の道德的愛他心は先刻も申した通り充分に功能かない昔しから色々の宗旨か出て色々の道德か出たか行はれない功能か少しもないか第二番目か必要である即はち其必要は德育か必要になる夫が最も必要なるは。どういふ譯かといふ

に人間は萬物の內て一番尊い知慧もあり働きもあるか又弱點も多いのて。そこて其愛己心丸るて愛他心のないものか人間に重に行はれる自分の事はかり考へることか能く行はれるものて。そふいふ樣に盛に働く時は第一の動感的も知識的も行はれない純粹の愛己心はかりは行はれる行はれると人を愛するのみならす自分を愛する自分の慾はかり渇かして人を愛するはかりてなく自分を愛するか人間か充分てないから仕方かない成たけ。そういふ害の起らぬ樣にしようといふには第二の道德敎的愛他心を成るへく進める樣にしなけれはならぬ今日の社會ては兄弟の間ても親子の間ても利慾の爲めに讎敵の樣になるか珍しい事てはない。そういふものは向を惡くするはかりてない自分も惡い其弊害を防くには第二の道德敎的愛他心を以て防くより外仕方かない即ち德育を能く屆く樣にして。そういふ害を防ぐより外に仕方かない德育の充分の功能はないけれとも外に仕方かないから夫をするより考へない夫たから先刻御話した今日の盲目の千九百九十七八人の暗黑の世界にはどうしても第二の愛他心を成るへく盛にしなけれはならぬ即ち德育を起さなけれはならぬ假令後には大知識となるにした所か子供の時は知慧かないから其子供を敎る中學小學の德育は第一に有り難いとか恐ろしいとか靈妙不思議な本尊樣かあつて夫れに依賴する德育てなけれは外に仕樣かないどうしても其德育さへも充分に功能かないか夫より外に仕方かない。そこて昔から宗旨を開いた敎祖聖人たとか賢人たとかゞ出て來て敎へを開いて其敎への功能のあつたのは敎祖聖人賢人とかいふものは非常に才力ある德望のある品行の正しい人て丸るて世を救ふ爲めに自分の命ちも身躰も打ち捨てゝ仕舞て。そうして一般の人民の爲めになる樣にといふ心を以て敎を開いた。そうして德育を廣けた其上に聖人賢人か天命を受けて來たとか或は人類より一等高い神樣たとか佛樣たとか或は上帝の子てあるとか不思議に勢力かある唯人間の道理て說くことの出來ぬ不思議な勢力を土臺に立てゝ夫れか本尊樣になつて敎へ込んた。そういふ樣な靈妙不思議の敎へかあるから千九百九十七八人の盲目の腦髓に感觸する事か誠に深く誠に强く其力か不思議程感觸したそういふ事は學者社會の哲學を說いて行く事とは違い哲學上て德育か出來るものてある。そういふ樣な盲目社會に宗敎の德育の功能かあるといふ其勢力は誠に不思議なもので英國の「ホッボス」といふ哲學者の話しに宗敎は丸藥の樣なものだ丸呑にしなけれはならぬ腦

み碎いてハ。いけないと云ました宗教ハ丸呑みにするか宜しい嚙み碎くと苦くて。かなわない。といふ事を申しましたか誠に面白い言葉た宗教は知識に關係したものてない唯感情に關係したものた知識を以て哲學の道理に依て宗教を嚙み碎けバつまらぬものになる苦いばかり役に立たぬ唯一ト呑みに呑むから功能かある。どうしても宗教と哲學の道理か違て凡俗社會に哲學の道理か役に立ず宗教の大勢力ある道理か出て來る其の樣に宗教の道德といふものか誠に不思議の力て功能か明かてある

以上ハ德育ハ敎祖とか聖人とか賢人とか佛とかいふものゝ開いた領分に依らなければならぬ外に道かないといふ事ハ私ハ充分異論のない事てあろうと思ふ夫れから諸君の御考ハ如何て御座いますか私の考てハ仕樣かない理屈詰にした道德他の本尊樣のない道德ハ仕樣ハない宗教に依ッた靈妙不思議の道德てなければ功能かないといふ考て御座います。どんな哲學者ても。どんな大學者か考へたるものても。そんな人の考へた樣なとを以て來た所か少しも役に立つまいと思ひます之れて宗教てなければ。いけないといふ道理か立ッたとして之れから更にお約束した宗旨を取るには。どうして取ッたら。よかろうといふ事を御話志します宗旨をゴタマぜに取ッたのてハ仕方かない宗旨を中學小學の修身科に取るのハ。どうしたらよかろうといふ事を申します。

○金屋の秘訣（第三）　　木村熊二

色を併合して衣裳などの美看を與んには近頃編物などの流行する時なれハ其の方法を學ひ得たる婦人ハ自然と自己の意思に適ふ樣に採り併せの工夫を凝して餘り不適當なる所爲ハあるまじけれども形より生する所の美を知らんにハ隨分注意せさる可らず余嘗て米國莫須頓に在りて友人と共に美術館を訪し時兩三個の婦人の其の館に來りて陳列せるグリシヤの肖像を摸寫するを見たり余ハ其の所以を問ひしに人物を畫くにはグリシヤの肖像を摸範するより好き稽古ハなし耳目鼻口の寸法より姿容の美しきハ之に增せるものあらざるべしといへり夫れ形の美ハ重に比例と平均と其宜きを得されハ大に嘲笑を招く事あらんとす床の間に着座する福助ハ身躰の比例よりハ顏頭餘り大に過ぎ大黑の腹の便々たるに比ふれハ足の甚しく短く惠比斯の耳の大なるに比へて顏の小さく福祿壽の頭ハ其實に過たる所あるなり今試にアポロチーチー或ハウィナス、ジェントリックを看るに其の姿容ハ直立して風に惱める柳の如

く眉目明秀にして夏の富士の如し群玉山頭にして瑤臺の月下にても期る美しき顔容ハ見る事のかのふましと思れたり又ニオブの肖像の愁を帯たる姿ハ露のひぬ間の朝顔に照す日影のつれなきありさまにてなはれ情の露の常にあれかしとの感を催さしめたり實にグリシャの彫像師か胸中に數多の美姿を含有するにあらされハ斯る肖像を彫刻するを得んや嘗て米國の彫像家か余に語りし事あり姙婦の美麗なる稚子を得んには其の居室に美麗なる肖像と有名なる畵工の摸寫したる畵像を陳列して常に之を覽めしむる事肝要なりと今我か國の婦人にして艶麗なる裝飾を試んと欲せハ繪畵にても肖像にても美麗なる婦人の姿容を常に想像せすんはある可からす遠き西洋婦人の姿容を學んよりハ近き支那と吾か國の美人の姿容に倣ふ事こそなし易き業なれと思れたり玉の階風さむく一葉の秋を催せし頃兩個の侍女に伴れて殿の外に立出たる班婕妤金闕夜靜かに返魂香裏に容を顯したる李夫人帳の外ハ春ならで風に凍れる河水の音に深宮の夢驚かされし明妃の姿ハ愁を含める風情あり桃實を携へたる西王母と相思を琵琶に寄せつる辨天の像は臈闌て卑しからさる風姿あれハ溫雅にして高尙なる姿の摸範に適すへし楠胡摩姫若菜姫ハ活潑中に沈着したる姿容なり雲には衣裳を憶ひ花にハ容を憶ふと李白か言し楊貴妃の從容として沈香亭北の欄干に倚りたる姿玉藻前の十二一重を着して玉簾より半身を顯したるハ玲瓏として近つく可からす非常に美麗なる姿あり黃昏が光る源氏と古寺に雨やとりせんとて前垂にて足をぬくふ有樣ハ多情にして處女の風あり若紫か娼家に養れたれと濁に染ぬ蓮花の泥より出て淸らかに開かんとする風情あり如斯き姿容ハ人々の御馴しみのものなりされと退て之を花柳の鄕に求め之を阿孃の群集に探れは夫ハ枚擧するに暇あらさるなり傳兵衛のおしゆん忠兵衛の梅川桐娜にして淸なる姿ありといへとも自ら浮薄輕佻にして淑雅の風なきを以て之を取らさるなり看官幸に自己の意嚮に適ひたる美姿を想像し其を摸範として裝飾したらんには萬里の外にある歐米婦人の風姿を慕ひ虎を畵て狗に類するには萬々勝る所あらん今日の社會にてハ顏色は黃を帶ひたるも白粉を以て白くし身丈ハ倭小くとも靴と高き帽子にて假裝し腰ハ太くともコーセットを用ひて〆なハクインメレーの窈窕にも倣ふへく楚宮の細腰をも學ふへしとて洋服を着したる婦人も多けれは一語の婆心をこゝに添へんと欲するなり

狀貌の肥滿して色の黑き婦人ハ夏は白き洋服を着するも氣候

の冷しくなるに隨ひ花麗なる色を廢して茶色青茶色焦茶紺色の餘り裝束のなき洋服を着し帽子ハ白き陀鳥の羽毛なとを用ひす海老色或ハ紺なとの地に赤き短き翼或ハ茶の羽毛なとにて飾りたらんにハ大に見る所ある可し身丈高く細腰にして色の薄弱なる婦人ハ薄き色の衣裳に十分飾を付け帽子ハ高きを要せす白き羽毛なとハ甚適當せるものなり又中ぜいにて色白く肥滿したる姿にハ如何なる衣裳にても宜けれとも餘り飾あらんよりハ稍淡薄にして活潑なる風に裝成すべきものなり總て色の黑き婦人ハ餘り花麗なる色の衣裳を着る可からす又身丈高く色白き婦人ハ衣裳に雜駁なる裝束を加へ高き帽子を戴く可からすこれそも尋常一般の法則なれハそを折衷して意趣に適ふ樣に裝飾せハ大なる誤謬ハある可からす

形の美麗ハ前にも言つる如く寸法と比例平均に大に關係するものなれハこゝに精密なる注意を添へさる可からす先つ單一なる物躰より之を說かんに今こゝに丸き輪と四角の板あり輪も板も規則正しきものなれと丸き形ハ四角より美しく見ゆるものあり板ハ四ツの側四ツの角あれハ之を看る時に視力を八ツに分たさるを得す輪ハ巡環にして其の看る所單一なれハ視力を分つ事甚少なけれハなり又四角ハ六角八角の物より美しきものなり餘り角多きものハ決して美しき形なるものならす又六面平行方形ハ六面ともに餘り規則正しく四角なるものよりハ大に美麗を減するものなり今西洋館の窓入口の戶なとハ四角ならんよりハ正角長方形を美なりとするハ便利上より看了して美麗とするものなり風雅なる書齋の窓の角切額よりハ丸き窓を開きたるハ自ら眞正の美麗を裝するものといふへしこの他場所によりて種々異る所もあれど美術上より說く時ハ丸き形ハ四角よりも美しき感を生せしむるものなり特に美術上のみならす近日社會交際上にも其の例し少からずとかく四角四面なる事久米平内の如くなれハ咬みたる紙を噴つけられ架上の達磨の躰卷せられ轉されつるも眼を見開きて轉倒し賓須留の顏の一ト皮むけるまで摩らるゝも靜坐沈默する如きハ甚公衆の意に愜へるにや

單一なる事の雜駁なるに勝れたるハ特に婦人裝飾のみならすして凡百のことみな然る處あり遠州流の生ケ花よりも當時ハさし込と一輪いけなどが自然の風致ありとてこれを賞翫し裝飾に富たる應擧文晁の人物畫よりハ景年梅嶺を賞美す千態萬狀を具したる造り菊よりハ黃菊白菊その外の名ハなくもかなといへり庭を作るにも盆池假山を以て齋中の看を欲せず翠枝

緑幹に飛び石の半ハ青苔に沒したるをよしとす家屋なども昔時の層樓傑閣に金銀を彫めて起したるものより堅牢なる西洋風の建築を好とせり又平素の會話なども自然と簡短に趣きて先づ年始の挨拶に新年の御慶より始り舊臘の御世話を謝し頓首を以て句讀とする事を廢して恭賀新禧の一句に止めたり田植歸りに袖つま引かれ話すはなしもあとや先なる田舍娘の情話ハ都人の愛想多き辭よりはいとおもしろく小供のがんぜなき語氣ハ含羞の阿孃より愛せらるゝもつまり言旨の了解し易きと單一素朴なるを以てなり。

● 叢話

○心の清き者は福なり

女學雜誌編者　演述
竹中松三　筆記

聖書に心の清き者は福なり其人は神を見ることを得べければなりと申しまする語が有りまするが私は今日此の語を題として少さか姉妹方にお勸め申したいと存じます、元來玆に神とありまするは無論全智全能にして唯一つなる眞の天父を申すことではありまするが此の一句の意味を押し廣ろげて說きまする時は必らずしも右の天父に付てのみ申さずとも宜しひかと存じます、即ハち神は清きが上に清く正しきが上に正しくましまして毫末の曲れるをも請け玉はず至純至清の性質を保ち玉ふ所の御方なるが故に此の清き所ろの神を見奉まつるには亦た己れの心清からずんば迚ても見へ得べきものでは無ひと云へる眞理に據り、大凡そ此世の中一切の清きものを瞭解し得る所の人は必らず亦た其心の清き人にのみ限ることであると云ふの道理を承知することが出來ませう。古語に英雄あつて能く英雄を知ると申しましたが眞に心清くして初めて心の清き者を悟ることが出來ると申して宜しひかと思ハるゝ。先づ世の中の下等人物もしくは邪知邪推に富める人々を御覽なさい人が信切の心より物を惠みまするとは何か爲めにする所があるのであらうと考へる、人が斯々云々と申しまするとあの人は表向で那の樣には言ふが其實は斯云へることであらうと邪推する、夫故へ正人君子が義に勇んで國家の爲に盡力するを見ても彼れは矢張り名譽の奴隷であるなどと嘲けりませう、假令ひ基督の如き御方が万國民を愛して十字架上に死せらるゝを見ても此れ只だ自分の宗旨を擴むる爲めであらうと申しまする。故に斯る心の清からざる人の眼には何如なる事物も悉く曲りて見らるゝを以て即ハち到底世の中の眞の清きものを見得ることが出來ません。左れば此世の森羅万象は悉く人の德を

養ふの現はれを示し世上の治亂興廢は一々道を敎ゆるの敎師ではありまするが右に申す如き心の淸からざるもの等は之をしも悉く曲げて承知しまするから斯る道德の敎へも遂に無効と爲り彌よ惡德に墜落することでありますo

然るに甚はだ歎ずべきことには彼の邪推邪知と云へる淸からざる考へ方は男子よりも寧しろ女の方々に多い樣よ思はれまするが万一にも實際左樣でありませうならば何卒特に勉めて斯る惡德を取除く樣に致したいと存じます、成程女の方々にはお世辭即はち心にも無ひツキアヒのお上手語が少と多う過るかと思はれまするが之れ即はち邪推邪知の由て起る所である何々さんは那樣は仰しやるもの丶眞から出るのでは在ますまいとか又た那の時に斯樣な顏色を爲すつたから必竟あれは口の上ばかりで內心は云々に思ひなさるのであらうなど丶心配さる丶ことは御婦人方に多い樣でありまず、既にお世辭が多くして隨て邪推邪知が多くなり邪推邪知が多く爲つて心彌よ淸からず何事をも眞直に考へないようの習慣が着きまするならば此の御婦人は到底世の中の淸きものを瞭解することが出來ず隨て曲つたる心が益す曲り甚はだ宜しからざる不貞節の心得方と爲らる丶でありませう尤も歎くべきことかと存じます。

夫故に何卒成るべく思を眞直にして考へ方を曲げざる樣に覺悟なされ始終心を淸く保たる丶ことを切に希望いたしまするが或る人は此に至り少さか心配して問はる丶ことでありませう即はち左樣に何をも箇をも眞直に考へる樣に致したらば他人に欺かれて損を爲ることが多いであらう人が淸からぬ心を以て自分を害せんとするものを當方で特更に淸く考へるように勉めることは愚らしきことではあるまじきかと掛念なさることでありませう。成程尤もの御心配で心を淸く保つ所ろの人は往々此樣なる損もありませうが之は即はち損の方を申したることで之が爲めに益する所ろを申しましたらば中々に數へ盡されませず迚ても斯る些細なる損と比ぶべきではありますまい、元來躰をのみ害するものは左程恐る丶に足りませんが躰の上に魂しひをも害する所のものは尤も之を恐れなければ爲らん又た金錢身の廻りの上の損亡は左程心配するにも足りませんが人として下等の人間と爲り道の上に於て大なる損を致しますることは餘程心配せずば相成らんものと存じます、夫故へ高尚優等の人物と爲ることを望まず邪知貪慾の人と爲ることをも懼ず只管らに金錢利益をのみ獲んことを主意とする下等の卑しき方々には無論申すまでは無いが苟くも道を守り德に進み日に日に

改ためて高等の人物と成らんとを望まるゝ人々には心を淸くするが爲めに損を爲ると申すとは無い筈かと信じまする、固より前にも申す如く時には人に欺かるゝと云へる損がありませう然し此時君子は道に依て欺かるゝとを厭はざるとの決心がありましたとあらバ此の欺かるゝと云へるとも決句其人の損とは成るまじきものであります。

昔し人あつて鄭の子產に生ける魚を贈りました子產は庖人に命じて之を池に放たしめたるところ庖人乍ち料理して食ひ濟まし主人に申しまするようは之を放ちましたるとき最初は圉々焉として浮み後には揚々然として躍り其處を得たる如く見へましたと云へば子產は大に悅んで安心を爲ました、之は其心の淸きが故に欺かれたるではありまするが此の欺かれたるは身を陷いれられたるでありません即ハち矢張其道德を進むる一つの助けと爲つたるもので決して其の損と爲れるものではありますまい故に心を淸く保たんとするものは時に欺かるゝとありとも道に依て欺かるゝあらバ決して顧慮するに及びません斷然として矢張り心を淸くし思を潔よくして道を樂しむが君子たるものゝ覺悟あらんと存じます。實に此の世の中は麻の亂れたるが如き種々の路あつて處々に數知れぬ穽がありますが若し一々用心して右に左に掛念心配したらば此の掛念心配のみにて思を屈し迚ても勇進直行して立派なる大事業を爲すとが出來ますまい、故に此際にも只だ心を淸くして進みませうならバ何も懼るゝとが無い勇氣全身に充滿して猛進するとが出來る、譬へば世の中を行くは猶ほ暗夜に路をたどり行くが如きでありまするが此際若しビク／＼として疑念心配のみに掛り合ひましたらば尾花の露を見て刄と思ひ松の古木を見て大入道と見誤まる如きともありませうが只だ思を濟まし心を淸くして進み行くときは一切此樣なる心配がなく甚だ安穩平易なるものでありませう。昔し希臘列國の英雄エパミノンダスは幕知十二邦の人民を代表したるより會席を退けられスゴ／＼として同行員と共に歸るとき或人エパミノンダスに對して之を怨みましたが彼は少かも不遇を憂ひたる景色なく「凡そ此の入組だる變化極りなき世の中の間に立ちては唯だ何處までも己の信ずる道義を守りて苦樂利害を顧みざるが正人の本意なり」と申しましたが、何卒道を守り德を養ふものハ常に此の決心を有したいもので左すれば心を淸くして世の淸きものを求るの人には毫末も損害のあらう筈なく反つて之に大なる福あるものと信ずるとです。

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

○道話

學びの窓に古今の書ども讀み行くうちに敎への助けと爲るべく思はるゝ瑣談一つ二つと書留たるが今はた多くなりぬ因りて其折々に思ひたることを論らひたる小話に合せて此の後ち此の題の下にて追々揭ぐることあるべし

(一)寡婦のランプ　昔し或る海邊のさみしき村に住める一人の寡婦ありけり年比ろ風波に難やみて船を破られ敢果なく海底の藻屑となり行ける慘憺たる有樣を見て太たく心を痛めたるが暴風ふく夜半、雨音のはげしき深更などには特更らに此情切になりて寢も眠られず夫が儘伏戶を出でゝ窓の邊にランプを持ち行き遙かに海面を望んで只だ何事もあらでよとのみ祈りたり斯て後には此事常のやうになりて凡そ雨風の烈しき夜はいつもかのランプを窓の處に持出でゝ海面を打守るの習はせと爲れり、然るに此の寡婦の家元來高き處に立ちたれば其窓の上に照れる光は甚はだ遠きに達し現に海中に難やむ船々が之に依りて燈明を得爲めに方角を定めて助かりたるもの少なからず遂には此の僅かなるランプの光は暴風雨の夜の燈明臺となり近海に惠を與へたること莫大なりしと云ふ、故に善を爲は必ずしも大ひなる事を爲にあらず若し心得たらんには僅かなる信切も即はち斯かる大効能を現はし少さかのランプを以て幾多の人命を救ふの光とは爲るべし(The Biblical Treasury)

(二)人に長たるの德　余は三國志を讀むごとに常に曹操と孔明との人と爲りを思ひ三歎せざることなし曹操は僕陽に呂布に劣り宛城に長繡に破れ赤壁に周瑜を怕れ華陽に關羽に謝し潼關に髯を剃り袍を棄てたり何ぞ其の破るゝことの多きや嘗て錦の袍を着て駿馬に跨がり大音あげて汝等西涼の勢曹丞相を見んと思ふか我もこれ常人なり目四つあるに非ず口兩つあるにあらず世の人に替りたるはたゞ智謀の深きのみと云へり然れども其智果して深きか何んぞ欺かるゝことの屢ばなるや、孔明は飄々然として世を出るの表あり昂々乎として雲を凌ぐの志あり一見して其高才を思ふべし戰つて嘗て破れたるなく謀られて人に欺かれたることなし其智の深き其計の至れる何んぞ如此くなる然れども孔明の遂に天下を合せず曹操の未だ全く亡びざりしは抑も何んぞや、史を讀むもの尤も思はざる可らず蓋し孔明の下に關羽張飛趙雲あり皆な龍虎の力ありと雖ども必竟諸葛先生の木偶たるに過ぎず孔明の下一人の新孔明あり之を姜維と云ふ孔明生るうち之を用ひざるは何んぞや孔明杖二十以上の事は皆な親からせざるなし孔明の下豈に之を爲の

人なからんや此れ實に深智深謀者の常失なり曹操よく破れよく欺かる欺かるゝか故に名士集まり破らるゝが故に名將出づ是れ人に長たるの一德なり嗚呼水清きに過るときは魚捿まず世の上に立つの孔明たるもの深く思はざる可らず

○ストーブ

寒氣追々に加はり西洋風の家にはストーブ(暖爐)を据へ付けらるゝとあらんが斯る家の心得方二三條あり、即はちストーブを焼く處の部屋は必らず新鮮の空氣を入るゝに足るの風の通ひ路なくては相成らず然らざれば第一健康に宜しからず又た室内の空氣大層に乾燥するものゆへストーブの上に金だらひ類の品を置き水を入れ置くか又は室内に盆栽を置くべし然らざれば肺にも目にも害あり、石炭と薪との經濟の相違は用ひ高の多少にも由れど石炭を用ゆると固より便利あるのみか左程に入用も嵩むものにあらず僅か斗り高きほどあり特に多く用ゆる所にては石炭を優れりとす、石炭は固く奇麗にしてかゝやけるを好しとす軟らかにして穴あり且つ濕ひたる塵の如きものゝ被ひたるは其品宜しからず

○寒冒

人の躰は平生三十七度の温度あるものなり但し貧血の人は三十六度半のともあれば血液の多き人は又た三十七度半の事あり次には年齢によりて温度の高低もあれど大略三十六七度の間を離るゝとなし三十八度と云へるは平常に於て無きとあり故に此の常温を知り置くと甚はだ大切にて若し温度が之れよりも登らば體に何かの變はりありと心得て宜しきものなり即はち例へば寒冒を引きたる時の如きは三十八度に上るべし之より更に登り四十度四十二度等に至るとあれば最早生命の助からぬ者と定るほどなり

故に常温を保つように用心すると大切なるが何か寒暑の急激なる變化に出會うときは即はち此の常温を損しでかの寒冒を感ずるものあり、寒冒は事もなき輕ろき病のように思ふものあれども之は大なる誤にてカゼは万病の入口とも申すほどなれば餘程用心せねばならず例するに彼の口頭カタル、肋膜炎、肺焮衝、氣管支カタル、リウマチス、の如き病は何も皆な寒冒より起るものあり故に寒冒を引かば固より大切にして之を速かに直ほすべきとあるが先づ初めより寒冒を引かぬやうにすると専一なり

然るに寒冒を引くは前にも云へる如く寒暑の變りを急に感ずるより起るとゆへ常々此の一事に尤も注意せざる可らず即は

ち風呂に入りて上りたるとき直ちに冷風に裸躰のまゝ當る如き又はストーブを大層に温かくしたる部屋より急に外に出で行く如き又は夏の事なれども熱したる躰を直ちに海水に沒して海水浴を爲すが如き何れもアタヽカサとサムサとを急に身に變へて感ずるより此の氣穴が閉ぢざる中に寒さに當りて乍ち寒氣を感じ扨てはカゼの病と爲ると也

左れば平生用心して成るべく此の變はりを急激にせざるように心得ると大切なるが既に寒冒を引きたるのちは能く身躰を温ため厚着をして氣穴を廣ろげ躰内の熱即はち常温よりも上に登りたる所の熱を發し去るようにすべし。

● 佳傳

○サイベリアの女傑　（其四）

はや此年は秋も逝き冬の初めとなりぬれば雪は積りて關を擁し愈旅の難を覺ふ漸やくエカテリンボルグに着きたれは但わる旅亭に投ぜしに家の主婦は其貯へ薄きを知りたれば豫て慈悲の聞ゆるマダムミリンとなん呼べる婦人を敎へける去れどプラスコベは思ふ所ありてにやまづ其地の敎會堂に至りしが幸ひ其日は聖日にて數多の信徒も集り居たれば共に拜伏し篤く神に祈りたりやがて式も終りたるに一人の氣高き婦人ありプラスコベが篤く事ふる樣に感じ其名をば知らまほしく思ひ傍近く來りて尋ねしに質朴順和のプラスコベは多くも答へで只マダムミリンを尋ね行かん途にて候と答へければ彼婦人は「ソーデ御坐るか然し尋る其御方は貴嬢の想ひ玉ふ程の善き人には候はじ尙一層善き御方を御世話致しましよから私と共に御出で遊ばせ、プラスコベは心の中に人を惡さまに言ふ人かなと思へど辭むに由なく後へに從ひ行きしが底氣味惡しく覺へしに婦人は見返り「ヨロシイ、ソンナニ其御方に逢ひたひとなればサこれが其御家、一寸行て見ませう若し又餘り善くもありませなんだら其節私が思ふ御方に御世話致しますから、と言ひながら門を入りて鈴を鳴せば應と答へて來る下女に向ひ「御内室は御內でか、下女は呆きれたる顏付にて暫し言葉もなければプラスコベは「マダムミリン樣に逢はれませぬか、下女は氣毒そうな顏にて側に立ちし婦人を指し「此方がマダムミリン樣で御座ります、と答ふるにぞミリン夫人もこれは當座の滑稽ぞ互に笑ひて内にぞ入ける。

プラスコベは親切なる勸めに任かせ其次の春まで其處に留まり讀書手習を敎へられけるが最早出立の時とはなれりマダム

ミリンハ万端旅の備をなし與へ尙心もとなしと思ひてや或る商人に道連を賴み万づ注意を願ひくれ給ひぬサテモこれよりウラル山を越へ都に上らんに陸路あり舟路あり陸路を取らんには手當薄く舟路を取らんにも尙足らざれば客船には乘りも得で荷物船にぞ乘りたりしにボルガ港に近く項暴風俄かに起りて舟頻りに動搖し過りて水中に陷りアハヤ水屑たらん身の辛くも救はれ九死の中の一生を喜ぶ間もなく力と思ひ楯と賴む商人は病の爲めに腦まされ一歩も進む能はざるより人を傭ひて賴み置き願を抱く身は儘ならずと別を告げ又もや一人旅となりニッヂニの町に着ければ一夜の宿を求めしに都の人の薄情なる耳は黄金の響に聾れ目は黄金の塵に盲み顧る人もなき恨めしさに但ある寺院に立ち寄りしに尼法師一人ありけり最と心易く迎へ入れ其所に其夜を送りしが東天明くる頃合より心地常ならで起くべきやうもあらざれば法師は何かな心付け懇切に待ひくれければ尙數日も留り快よき時は法師と共に神に事へしに心中何となく喜ばしく樂しみ愈深ければ遂に自ら寺院に入らんとまで心を決しぬ

其より雪車を雇ひて行くうちに何時しかモスコーの都を後に見て早やセントピートルスボルグある都城にぞ着きぬこれ一月の中ごろにて屈指みれば十八ヶ月の旅程ありけり

斯てある旅亭に投して豫て法師の示しくれし二人の貴女を訪ねしに河岸の住居と聞けど今や結たる氷の解けなんとする時なれば橋もなけれは舟もなく渡らん由もあらざれば心千々にはやるまゝ身自ら訴へて見んと議院よ至り振ひながらも願書を差出せしに書記は涼かに看過して却下しぬ折から來る守衛の兵乞食とや思ひけん脇手に挾みて門の外へと出て行きつ聲を荒らげて逐ひ遣りける

然れど尙志を屈ぐるなく誰かある此の願ひを聞く人やはと日に日に議院の前に伏して入り來る人に憐を乞ふこと數へ見れば既に十五日の長に互れど顧る人だになき悲さを尙意ともなさゞる志鐵石の心をも溶しけん一人の議官其願書をば取り上げゝるサテハ願の達せしよなと喜ぶ間もなく銀行爲替を取り出し願書と共に返與されぬ其の志は難有けれど尙恨む所あるべし

最早河氷も溶け去りて橋の通もつきたればプラスコベは彼の貴女を訪ねしに最も優しく迎へ入れ頻りに其志を擧ながら尙其親戚なる人にも願て其志を助けしめたり又他の一貴女と申すは恐れ多くも魯國內親王君と聞へ侍べる既にモスコー

よりの書信にプラスコベが噂を聞き玉ひたれば早速使を遣はし招き給ひぬ玉樓高く聳へて紫雲靆き瑤臺欄を列ねて瑞氣深し窓に輝く水晶鏡坐に咲く黄金甑これ誰が王城ぞ幽かに聞こゆ琵琶の聲暗に認む膏油の香これ詩の樂園にあらずやとプラスコベは只茫然とあきれ果て夢みる心地なし居たり内親王君は近く招き見給ふに其容質朴にして優しく朴訥にして誠あるを愛で玉ふに尚其志を聞き玉ひて一入御感に入り最と不愍を催し玉へりプラスコベは深く感佩に堪へて退きしに其翌る日皇太后宮より御使玉はりければプラスコベは天に躍り地に躍り暫し狂へる如くなりしが忽ち居直り篤き感謝を神に捧げたり

誠一つのプラスコベ外の飾も知らばこそ身の装も田舎風何心なく罷り出てぬ勿躰なくも皇太后御座を立ち出で近く招き其志を聞こし召し玉ひて玉の涙を注ぎ玉ひ只管其孝心の程を賞め玉ひ天皇陛下に申し傳ふとまで宣ひし其上にも尚當座の賜とて銀三百ラッブルを下し玉へるこそ實に難有き至なり

綾に畏さ天皇陛下も其旨を聞こし召し給ひ最とゞ不愍を加へ玉ひしが若しもロパラフが身にして果して罪のあらんには天下の大法奈何ともする能はざる事あれば更に其再調を予命し給ひけるプラスコベは事の成行頼母しく意外の仕合多ければ夢にやあらん現にやあらんと自ら迷ふ程なれど尚彼の二人の村人が事抔想ひ出で彼等が宥も願ばやと思ひ居りしに數日を經てロパラフが罪分明ならねば無罪放免を命ずと綸旨ありて尚旅費までも添へ加へてサイビリヤに送りし旨プラスコベに通達あり尚ほ願ふ所あらば汝か切なる心に賞で丶與へくれんと傳へ玉ひければプラスコベは天地に躍り只管其大恩を謝し且彼村人の宥をも願ひ出てけるに其志尚ほ他人に及ぶとて叡感斜ならず直ちに宥を下し給へる難有き次第なり

話頭首扨てもサイビリアに在りてはロパラフ夫婦は愛する娘に別れてより又逢ふことのかのうかやこれぞ最後の別れかと朝くれ娘か事のみ噂してひたすら力を落せしに忽ち至る望外の綸旨扨ては娘が功績か愈吾れも自由の身かと喜び勇み其旨彼村人に告しに二人は喜び祝せしが又暫して我等こそは實に望なし望なき此の身等が君に別て其後は誰れと共に冬の日夏の夜を過さんやと恨み嘆つも道理と同感の情聊かにても慰んとロパラフは其旅費の半を分ち與へんと言ひしに其中一人の言へる樣「イヤ〳〵金子は入りませぬ私しは娘子か出立の時收め玉ばざりし餞別の金を尚持て居ますれば……

ロパロフは村人等に別を告げ明朝出立せんとて床に就しに夜半頃州吏俄かに來りて一書を與へければ何事ならんと開き見るに彼村人が赦罪の沙汰あり十分の望に滿ちて直ちに彼等が宅に到り共に神に謝し只管其の幸福を思ふに付けプラスコベが心根を想やり感涙袖を濕しける扨てもロパロフは告別して旅の空にと出で立ちしが何日に異りて足の運びも速やかに早やニッチニの都に着ければ既にプラスコベも其所に在り共に抱き抱かれて喜び涙に咽びつゝ暫し言葉もなかりけり是偏へにプラスコベが志の篤きに因るとは云へどプラスコベは只管ら神の助けと信ずるものから神に事ふるの念愈よ切に且つは昔の喜びを想ひ出で遂に其身を法界に入れ餘生を淸く神に事へ奉つり永き眠に就たるは一千八百九年雪深き冬の十二月の初なり

○ハンナ、モア　上に掲ぐるはハンナ、モア女史の肖像なり女史が年少うして既でに文名を轟ろかし倫敦の學者社會に出で丶學王ジョンソンをも驚かし其比ろ青靴足袋の仲間の首らと仰がれ評判喧しきとありしが後には人世の實相を觀じて慈善の念

禁じがたく遂に片田舎に退きて貧しき村民等の子弟を教育し傍ら著書數多を公けにして續ほしを當今に迄で遺こされたる事など女學雜誌第六十二號の佳傳中に記るしたり

○ビー夫人の實傳

ビー夫人とは故ありて其實名を秘し只だ其頭文字一字を擧げたる米國貴婦人某の事を云ふなり同夫人の子某學士は夙に我國に渡來して子弟を教育し專ぱら傳教の基礎を永遠に置ゆるの計畫に盡力あり之が爲めに人と爲つて現に今ま基督敎社會に勢力ある本邦敎師の方々尠しとせず我國には緣故の淺からざる夫人にてあるなり然るに其一生の經歷は年少き娘兒等の心得となるべき箇條甚はだ多ければとて夫人の姪ゐて座はせる某が横濱の或る女學校に於て其畧傳を演説ありぬ其時之を口譯ありたる女史何某后に自から之を筆記し吾人に寄せられたるが傳中に關はり合ひありて而かも其の惡業尠なからざる人々の名前の公けとならんとの氣の毒あれば一切實の姓名を記るさず只だ何々とのみ號け置べきよう別に彼の演説ありたる姪の方より申越されたれば則はち下に只だビー夫人として其經驗を傳し關係の人々をも一々匿名にして本姓を現はさずと雖ども話皆な實際にして寸毫の作り事なし讀む人もし其の筋道を考へて修身の一助と爲さば此の傳を公けにする人々の望を充したるなり。

ビー夫人とは今を距る四五十年の頃ろ米國の東部に住したる人なり永眠に先だつ數年にして自から其履歴を記るし人に與へられたるを見るに其年少く座はしたる時の事にて人を驚かすべきもの多くあれば今下もに其大略を談し申さん。

抑もビー夫人と云へるは某と云ふ職人の末女にして母は九歳の時より他家に養女と爲られたるものなり父母ともに熱心なる基督信者なりしが父は夫人出生后十月にして先づ世を去られたれば母のエッチ氏は一男六女を身一つに引受けて養育ありけり然れど其後ち鬱々として常に樂しまず殊に肺病の爲に大なる難儀を覺へられければ迚も一人にて多くの子供を介抱しがたしと覺悟し二女を伯母に一男を大工職某の家に長女スイを朋友何某の家に預けられぬ。

扨ても此の長女スイと云へるは後に至りビー夫人の身の上に非常の關係を及ぼせるものなれば今ま少しく其人と爲りを記さんに此兒元來容貌美麗にして甚だ淸らかなる生れなれば之を見るもの皆な其姿の艶なるを賞し殊には其志の共もに優なるよしをも承知して之を賛へざるはなかりき然るに玉質豈に

瑕なからんや柔和の性に一つの氣質を混じ稍や驕慢人にをごるの惡德ありけるよしは甚はだ親しきものゝ外は斷て悟り得ざりしとあらん、斯て近邊にエス某と云ふ少年あり神を信ぜずして肉の慾に耽けり甚はだ賴母しからざる若者なりしが夙くより此のスィを掛想し人を以て婚儀を申し込みたれど兼ねて惡評の聞えあれバとて母は固く之を拒みたるが少年心の曲れるに似ず風姿の甚はだ優雅なれバスィは之を左程に惡むべきものとは見ず反つて稍や心を動かさんとするの傾きもあれば母は殊の外に心配し乍ち其の寓所を轉ぜしめたるに少年亦た之を悟りて後を慕ひ復もや其近邊に至りて寄居するなど事の爲し樣甚はだ執着見へたる所ろ母は追々に躰弱はりて万事思ふ如くに取斗ひの出來ざりければ遂に壓し切つて此の好ましからぬ婚緣を斷ち去るの英斷を欠き後には止む得ず之を許してスィ女エヌ某先づ滯りなく結婚することとなれり。

●寄書

○文苑　　鈴木弘恭大人　撰

山紅葉　　古宇田淑子

夕つく日かたふくかたに色見えて一入まさるやまのもみち葉

同　　南摩まさ子

梢のみいろつくとみしもみち葉ハ谷のなかれもうめてける哉

同　　井上直子

谷かげに時雨れし雲はをさまりて夕日に照れる峰のもみちば

同　　太田きん子

染わたす賤機山のもみちばハたかおりかけしにしきなるらむ

同　　鈴木久子

白露ハいろも見えぬをいかにして笠とりの山はちゝに染けん

同　　大生しつ子

むら時雨うちふるごとに色まして花にもまさる山のもみち葉

○菊見にと契る消息　　井上なほ子

此の頃ハ。いとよう晴わたりたる空の。春のやうなれば。人々野山に立出などするも。なにとなううらやましう侍るに。菊の花こそ盛りなりぬれと。人のかたり侍れば。明日なんみにゆかましとおきてはべりぬ。おんいとまもおはしまさば。もろともに千世のかざしを手折りたまはずや。あなかしこ。

、、、○秋夜友人の許を訪ふ詞　　廣瀨壽惠子

はなやかにさしたる夕日も。程なくかげを收めて。ねぐらを求むる鴉のむれも。かすかにくれゆくまゝに。秋の最中ハ過にたれど。さすがに清き月の木のまもりくる影にあくかれいでゝ。そゞろありきしつゝ友どちの門にいたりぬ。竹のあみ戸ハさしたれど。かくれなき糸たけの音の月にすみわたりたるが。いとゆかしければ。ふとさしのぞくに庭の面ハ虫のやどりにとてや刈り殘しけん。一むらの薄の野となりてすたく聲々露けくこそおぼゆるに。まばらなる板屋の月をいとけうありげに。獨り琴かきならしたるけはひあてやかにやさしかれば。ゆくりなく驚かさんもさすがにて。しばしたゞずみたるをりから。後の方にこゑありて友どち一人はやうより來あはせたり。折もよしとてうちつれてはひ入れば。あるじいたうよろこびて出むかへ。つれ／＼なるをりから打連てゆくりなくおとづれ給へる嬉しさよ。心のかぎりうちとけて物語りせんとて。またもかいなでなどするに。やがて糸竹もしらべさして。今よひの月を題にて歌よまんとて。ふみなどあまたとうでゝ。いたうけうに入るほどに。いつのまにか木々の梢風すさまじうなりて。月かげハ松より西にかたふきたるに驚きてかへらんとすれば。こよひはこゝにものし給へなどいふにまかせて一夜やどりぬるハ。かのうちつけにつどひし花の下のまとゐにも遙かに立まさりてなむ。

、○秋夜の記事　　山田ちか子

秋ふかき頃とて。大かたの風さへ身にしみて寒さをおぼゆるに。夕まぐれのかりがねの。何となううらかなしく聞ゆれば。ふる里にいますたらちねの事など思出られて。いとゞ心もむすぼるゝ折から。十六夜の月さし出たれど。世はなれたる住ひハ。語りあふ人もなくて。ひるだにいと物淋し。まして夕べハ人のゆきゝもとたえたれど。庭の虫のねすみわたりたるが。いとおもしろうおぼゆれば。はしちかう立出て。しばし耳かたむくる折しも。柴の戸をおとなう人あり。かゝる

いほりになに人のとふにか。とみやしみつゝ立いつれば。日頃親しき友の二三人。うちつどひてきたるなりけり。いとうれしうていざなひ入れて。何くれとものがたりさるほどに。月かげ高うさしのぼりて。庭のおもへまなくてり渡り。池の水影きよくおぼゆれば。、、、、、くみかはして。一入のけうをうるほどに。ねよせのかねにうちおどろかされて。人々立さりぬるぞいと口惜しき。

、〇　同　古宇田よし子

虫の聲風の音身にしみて。いと〻あはれなる秋の夜は。なかなかものうくて心細くなん。友どち二三人うち集ひて。をかしき物語などしてあるほどは。心もたのしくこそ覺ゆれ。やうやう更行くまゝに。家々に歸りぬれば。たゞ一人ちかうかゝげたる燈火のもとに。文机によりて書ども打ひろげつゝ。ゑめやかによみなす程に。いみじう心すみて。過にし事の思ひ出られ。遠き世の人も何となう知る人の心ちせられて。いと哀にぞおぼゆる。かゝるほどにいつのまにかまどろみけん。寺々のそやのかねにうち驚けば。夢ともうつゝともわかぬそかりに。遥かに初雁の鳴わたる聲いとめづらかなり。と耳とゞめて聞くに。又あれたる庭ながら。

小夜ふけて人も訪こぬねやちかくおのか時とや虫ぞ鳴なる。

、、〇　同　朝山豐子

冬の雪春の花と。何れはあれど。わきて奥深く哀なるは。秋こそとに多かめれ。霧立のぼる夕べの空ようやう暮はてゝ。露吹結ふ庭の淺茅にすだく虫のねも。更行くまゝに哀に聞ゆ。いとゞさやけき月の光に前栽のくまなく見ゆるを。端居して打守るほどに。袖にも影のやどるぞかり覺ゆ。いへん方なきに。何地さして行らん。雁がねの打連りて鳴渡るさまなどはもいへれぬに。やうやう夜寒に成行けぞ。よ毎に聞ゆる砧の音。松ふく風に打つれて。遠く近くぞおぼゆる。里遠き山家に住めぞ。さを鹿の妻こふ聲も哀なり。いひ續くれぞ毎事に哀ならぬはなし。されど老たる人は。すがの根の永きをかこつをりもありなん。これひとつのみこそ秋の夜のわびしさには有けれ。

〇女子の高等學及女醫　（其二）　松井廉

凡そ女子の性ハ兎角内氣の質なれぞ人と談するも言聊か男女間の情愛に渉れハ兩頰忽ち桃花色を呈する位なれハ假令生殖器に患を起すあるも決して人に公言せす惟人の知るあらんとを恐る故に竊かに母に語り得へきも父に語るを憚り妹に語り得へきも兄に語るを憚り隣家の老母に語り得へきも己れの夫に語ると能ハす要するに己れと生殖器を同ふするものに對してハ服藏するとなく己れと體質を異にするものにハ常に服藏して語る能ハさるものなり是れ婦女の通有性にして深く怪むに足らす父兄に尙且つ之を言ふを憚る況や骨肉外なる醫男子に之を語りて其患部の驗査を憚らざるもの盖幾希なり況んや生殖器の病に至りてハ男子と雖とも之を言ふに憚るものあるをや且つ此の病ハ女子に多くして男子に少し之により女子の鬱々病を抱藏して貴重なる生命を短縮するもの世間に少からす隨て男子も之れか爲に病を暗々裏に醸造し又其快樂を盡す能ハす啻に夫婦間に子なきを慨するに至る其害實に大ならすや世もし產婆なくして男子をして其業を取しめぞ姙母の產男に托するもの十に三なかるへし今日此の病を知りて畏れす憚らす男醫に托して十分心實を吐露するもの恐くハ亦十中僅かに三あるのみ其餘ハ皆之か爲に生命を短縮するとを免れさるなり

諺に云ふ己れ母たらされハ母の恩を知る能ハす己れ女ならざる以上ハ如何程神明の智術ありて患者の總身を玻璃の如く見透す斗りの男醫も已に彼れと是れと生殖器を異にする以上ハ萬々一己れを以て人を推すの恕心に乏しく或ハ隔靴の憾なきを保し能ハさるなり若し今男子の病ハ男醫に見せ婦女の病ハ女醫の治療を乞ふに至れハ被治者主治者の間に互に服藏するとなく十分に病處の問答をなし得へく患部の審査を盡し得べきなり亦何の憚る所あらんや果して然らハ家々皆安康齊眉夫妻其快樂を盡すを得て子なきの歎聲も遂に絕ふるに至らんか富國の術强兵の策亦何ぞ女醫を設くるの一事にあるにあらざるを知らんや嗚呼世の婦女よ苟も愛國の愛情あらハ何ぞ進て自ら仁術を學ひて衆婦女膏肓の二豎を驅逐するとを圖らさるや

今日歐米婦女の大學に入り高等の學科を受くるを得さるにより其議論激發し甚しきハ女子にして政權を希望するに至る西洋女子の男壯活潑の氣風實に羨むべし我國の婦女子假令西洋女子の英氣に乏しと雖も醫學を脩むる位の志勿るべからす豈に脊病婦となりて醫男醫の驅使を甘して可ならんや男子と共に自由の快樂を同ふし平等平均の權理を望みなから人世の一大要事たる死生の事に至りてハ則ち頭を低れ腰を屈かめて男醫の匕を仰かさるを得す亦恥すへきの至りならすや嗚呼文明と稱せらるゝ歐米の政府の女醫を設くるの遠慮なきや開化と稱せらるゝ歐米の女子よ女醫の數を男醫に比例せしむるの英志なきや余か文明開化の稱を彼に許さゞる所以なり我親愛なる衆姉妹よ苟も愛國の心を懷き自由の望みを得んと欲せは何そ早く進て此任に當らさる

終りに臨み我政府に對し我姉妹間の爲めに希望するの一事あり何そや西洋各國概して女子の高等大學に入るを許さゞるも彼俄羅斯瑞西の如きハ獨女子の醫學一科を修むるを許せりと聞けり我政府も亦早く此の如き學令を下し許されんとを否我政府ハ皆賢明にして文明の岸に汲々と達せんとを勉めをらるゝの際なれば我輩の希望を待すして早晩此恩令を拜讀するを得ん

〇女權伸張策に付ての來狀

左は編者に向て送附ありたる某氏の書狀なり

一翰拜呈仕候未だ謦欬に接す候處女學雜誌紙上にて御名論拜見仕り欣慕罷在候小生義も日本女子の改良ハ目下放棄すべからざる問題かと存候畢竟女權の擴張ハ女德の涵養に在りて女德の涵養ハ且つ又知識の發達に可有之而して其知識の發達を求め候には矢張女德の涵養に由り女德の涵養ハ女權の擴張に恭き原因結果となる結果原因と相成り相互に關係交涉致し在候樣感考致し候左候へば其內孰れか一つ成就致し候ば餘ハ自然と相伴て進歩可致候凡ゐ物に緩急有之候ハ避

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くべからざる道理に御坐候には此三つの中にても矢張其成功に至る迄に緩急有可之女權擴張ハ知識發達よりも知識發達ハ女德涵養よりも先つ手早く成功相出來候やも難計候而して今此女權を擴張致し候にハ先つ女權擴張をば目下の一大問題となす事に御座候然は之をなすには勉めて世人の注意を此一點に向へしむる事が何より肝要と存候乍去決して粗暴過激にして世人の耳目を聳動し而して此目的を達すると云ふには無御座候小生の考にて近來は建白書流行の際に有之候女子よりも建白書を差出し候得ハ唯今小生が申上候期望も之か爲めに大に力を添へんと存候然しかく申候ても決して政治上の建白には無之矢張女子に關係致し候所のとに御座候愚按に依れば先つ三ヶ條々と致し第一皇后陛下の御誕節を祭日に加ふと第二女子を行政官吏に擢用すると第三女子の人身賣買を廢するとにして各府縣の女子を誘導致し各處の總代を撰び建白書を捧呈致し候樣になりては如何に候や定て御高見も可有之候若し又御賛成も候へハ當時此事を周旋幹理致し候は足下を除き候ては一人も無之候故日本女子前途の爲め御盡力可被成樣冀望致候猶又基督教擴張に付ても愚案有之候へ共後日御談可申上先つはうれのみ拙筆にて萬一を盡す能はず何卒御推讀被下度失敬之段は幾重にも御宥恕可被下候頓首

十二月五日　中井生

巖本先生研北

●新報

○婦人矯風會紀年會　去る六日午后二時より日本橋教會々堂に於て婦人矯風會の紀年會並に役員改撰會あり主會は會頭矢島揖子にして同子の年會演說書記佐々城豐壽子の年報々告及び會計海老名宮子代理本多孝子の會計報告次に佐々城豐壽出口せい串田しげ三子の勸話あり畢て役員の改撰を行はれたる所ろ多數に依り左の如く定まりぬ

會頭　矢島揖　書記　佐々城豐壽
會計　竹尾琴　本多孝

此晩本所新吾妻亭に於て同會員中の有志者會食するとき串田茂子立ちて本會の事務所及び講修所の整はざるとを慨歎し熱心なる演說ありしかを其座に居合はせたる方々悉く大に感奮し佐々城本支氏は五十圓、福原祐四郎氏は五十圓、田村顯光君五圓其外會員中にて矢島揖(二十圓)藤島信(二十圓)和田垣つな(十圓)本多孝(二十圓)串田しげ(十五圓)佐々城豐壽(十圓)潮田ちせ(五圓)小崎ちよ(五圓)二口合して二百十圓の寄附ありたりと云ふ驚喜すべき佳報と云ふべし
尙ほ同會の錄事を例の如く次號に於て掲載するに付之に就て承知あらんことを告ぐ

○婦人會の雜誌　婦人矯風會は近々毎月一冊づゝの報告を發兌さるべく又た婦人衛生會に於ては來年一月より大抵四季に一冊づゝ衛生上の談話を平易に錄るしたる雜誌を發兌し廣く配布さるべき計畫あり

○婦人慈善會　東京慈惠院の幹事(貴婦人方)は去る一日午後二時過參內し皇后宮陛下に謁見し去月鹿鳴館にて催したる同院寄附慈善會の結果を奏上したる由

○慈善會員の宴會　婦人慈善會員諸氏は去る六日芝離宮に會し此程催ふしたる第三回慈善會成績報告の總會を開らき終て盛宴を張り餘興に師天齋正一の手品及び福引等の催しありしと聞きぬ

○篤志看護婦人會　有栖川一品宮御息所殿下を初じめ其他貴婦人方の發起により篤志看護婦人會なるものを設立せり日本赤十字社員たる婦人は何人にても入會を許るし會員たるものは毎月第一第三の木曜日を以て看護法救急法の如き學術を學修せしめ重もに戰時軍人の負傷者を看護するの方法を研究するにありて講師は赤十字社員陸軍一等軍醫正足立寬氏の負擔にて其の教程は既に第三號まで出來し追々續出する由同會は開設以來日猶ほ淺きも餘程の入會者ありて日に增加の景況なりと

○生徒募集　來明治廿一年四月高等師範學校にて女子師範學科生徒二十五名募集せられ府下居住の者は本月十五日迄に出願し其資格は左の個條に適するものにて詳細の事は東京府廳學務課にて承合すべしとのことなり

一尋常師範學科に適應したる當女子師範學科二ヶ年の課程を卒りたるもの若しくは之に均しき學力資格を有する女子にして年齡廿年以上の者

○靜岡女學校　同校去月廿六日開校式を執行せり其景況を略記すれば第一牧師小林光泰氏の祈禱次に頌歌次に知事關口隆吉氏の演說次校主佐倉信武氏の祝文朗讀次に音樂中學校御雇外國教師カウシナー氏夫婦次に同校教師カンニンクハム氏演說通辯ハ公立靜岡病院長井上豐作氏夫人なりし而して該校は手狹なるか爲め賓客の外參觀を謝絕せられしは遺憾なりし授業は去る一日より始む生徒も續々申込みありて盛大の摸樣なりと同地よりの通信に見ゆ

○福岡の英和女學校　目下福岡區天神町に新築中なる同校は工費凡そ一万圓にて來廿一年五月迄には落成の見込なりと云ふ

○女生徒の着袴　福岡尋常師範學校女子部の生徒は外出の時は必ず着袴することに極めたりと

○海老名宮子　前の婦人矯風會々計海老名みや子は彈正君熊本傳道の爲め彼地に趣かれたるに從ひ去月末當地を發足して彼處に趣かる

○世界の女報　米國バッサル女子大學校に於ては世界各國の女子の景況を取調らべらるゝ由にて各地に在る同校の卒業生に委托し其塲所の報告を求めらるゝ由なり我國にては大山伯爵夫人即ハち同校の卒業生にて座へせど同校より此事委托ありし節ハ折惡しく不快にて居ませる由にて當時橫濱に在留さるゝギルパトリック夫人(バッサル校卒業生)自から我國の女子の有樣を記るし報告さるゝよし依て其材料の取集め方に付て吾社へも尋問さるゝ所ありき而して同夫人の請により橫濱フェリス女學校敎師島田かし子も亦た別に日本女況と云へる一篇を草し同夫人の報告と共に彼地に送られたるよしなり何れ數ヶ月后には彼地の校に於て各國の報

告を取集めて出版あるべく出版の上は吾社へも一部寄贈さるべき由に付後に至りて讀者に其抄略を示すとあらん

○米國全權公使の書簡　左の一書は此の程京都看病婦學校の開校式に際し我邦駐剳米國全權公使ハッバード氏より寄せられたるものにして書中彼米國人が我邦人に對する情誼の一端を窺ふに足るべきものたるが故に玆に讀者の一覽に供す（十一月廿三日中外電報）

拜啓陳者本月十八日附の貴書奉拜誦欣悅の至りに御坐候然れ共今より二年以前米國の慈善家日本基督敎徒と協議の上日本の舊都なる京都に於いて看病婦學校設立の計畫被致今也其建築略ぼ落成し愈來十一月十五日を以て開業式御執行の趣御通知被下滿悅此事に御坐候就ては拙者へも當日の式に臨み委員諸君の爲に適當なる一場の演說仕候樣御依賴被下候段面目至極に奉存候憾らくハ拙者儀官職上の差支並に私約等有之當日の盛會に臨むの榮を得る能はず遺憾千萬に奉存候抑も此博愛慈善の業は其方法賢明にして其事基督敎主義に出で實に發起者並に贊成者の智德を表彰するに足るものにして世上の榮譽之に加ふる者無之候今より一層高尙に進み博愛に基づかんとする將來の文明には欠く可からざる家內及病院にありて患者を看護する看病婦を養成せんための師範學校とも稱すべきものに有之候左れば數百年來世に猖獗暴發して天下の蒼生を苦しむるに當り百方其恐るべき害惡を除かんと欲し幾度となく經驗に因つて世人の稱へたる如く「善良なる看病は水藥半瓶より効驗多し」との諺を今繰り返し申候事敢て博識なる醫師の業に對し不遜にも有之間敷と存申候拙者は此舊帝國にありて我輩の愛する本國を代表し責任重き外交の地位に立ち候事是れ專ら日本に在留し又た兩國の間を相往來し彼我の產物を運輸交易する我國人に對する形體上利益の並其權理を保護する爲にして全く政治に關し俗事に係る所に候得共拙者は一個の米國人民たるの權理を以て敢て一言を爰に加度思惟仕候即ち西洋に於て我父祖の宗敎を傳播すべき所は之を此三千八百万の人口中病苦に罹りて惱める人民の間に於てするより最も適當なる所無之と存申候夫れ此日本の人民は無欲にして賢明なる靈力則ち今回御計畫の事業の如く只國民の病苦を癒し或は其國民の道德を高めんとする美擧に對しては必ず其恩義を覺りて之に感動するの切なると敢て天日の下に在る他の文明諸國民に異なる所無御座候而に斯く日本の爲及一般人類の爲此事業を創めて既に略ぼ成功に至らしめたるは專ら米國の博愛家にあると殊に拙者が米國人民として其榮譽を誇る所に御座候希くは今日の成功は一層高尙盛大なる將來の前表と相成申候樣偏に相祈申候然れば拙者申す迄もなく我博愛諸有志の報は自今以後此計畫に因て幸福を蒙りたる數多の日本人民よりして感恩の雨となりて其頭上に降り來り可申候てはこれ世上の報としては無上の價ひあるものに候得共諸氏の爲には天上にある君よりして之にも勝りて一層貴く且淸らかなる報賞可有之事更に疑無之候嗚呼基督紀元の以前よりして忠君愛國の情今に衰へざる此國民を支配し玉ふたる帝王の舊都に於て米國の慈善家が此事業を起さんことを計畫し今や既に其開業の成功に至らしめたる其博愛慈仁に對する拙者感激の情甚だ切なるも書中の意其萬一を罄す能はず只だ偏に鄙書朗讀の爲め委員諸君の貴重なる時間を消費せんことを恐縮の至りに堪不申而已に御座候敬白

十月廿六日　リチャールド、ビー、ハッバード

米國アメリカンボード宣敎醫
博士兼京都看病婦學校委員長
ヂョン、シー、ベリー殿

○日本人共濟會　在瓜哇日本人慈善會を起さんと在ホノル、日本婦人岩井りめ子中山きん子安藤ふみ子の三名發起者となりて瓜哇國に出稼の日本人中惡疾病氣其他の不仕合にて難儀致居る人々を救はんため御國慈善會を設けたしとの主意書を發し在ホノル、府日本人有志者は去る十月九日本總領事館に集まり會議を開らき日本人共濟會と名づくる一會を設くるに決し會長には安藤夫人副會長には中山夫人常置委員には安藤太郞(本部長)中山讓治(本部副長)岩井禎三(幹事庶務衛生兼務)日比野正一(同上庶務會計兼務)藤田敏郞(同會計)中山嘉吉郞(同庶務)の六氏當撰し擧りて衆員贊成の意を表し且つ各地日本人よりも同一の贊成を冀望する爲め一書を起草し翌十日の夜ホノル、府中にある瓜哇少年福音堂にて在府共濟會創立委員等には一大會を開らき同會の贊成者を招請し日本人凡そ百名計外國紳士夫人十數名參會し開塲の儀式及演說あり畢て茶菓の饗應あり此夜本會每月會費の外特別に寄附せし人々內外人合せて廿七人あり金額二百數十圓に及びし由

○婦人共勵會　去月廿六日午後二時より京都俱樂部に於て開きたる婦人共勵會の例會にてゴルドン夫人が米國夫人の働きと云る演說、同志社敎師澤田和民氏が婦人の地位と言へる演說にて聽衆は凡そ二百名餘もありたりと同會は京都基督敎信徒中の婦人が發起者となりて同盟したるものにて其の目的とする所は專ら舊來の弊風を懲めて婦人の品位を高むるにあるよしなるが其事務所は四條小橋東入村田榮次郞氏の宅なりと（十一月廿九日中外電報）

○婦人手工講習會　同會は下野國佐野にて一時廢ありて其儘中絕し此度同地戶長中野貫次郞氏及高等小學校々長常見甫氏等の盡力により設立せられしものにて近日の中に第一回を催し講事を開き敎師は糸井、秋山の兩女史にて英語、洋服裁縫、編物を敎授し或は敎育上必要なる談話をなし智識を交換なさんとの目的なるよし

○仙臺松操學校　同校にては本月十、十一、の兩日を以て高等全科十二名中等全科十五名の試驗を執行さるゝと云ふ尙ほ過般洋服裁縫の一科を加へられしより一層に隆盛に至りしが今後は區內貧民の妻子に限り無月謝にて敎授さるゝ由

○女子育英會　宮城縣本吉郡氣仙沼の婦女子には舊來の陋習を蟬脫し優美の氣風を養成せんとて氣仙沼女子育英會なるものを起したるに多の贊助者を得漸次隆盛に趣き會員已に三十餘名に及びしかば今般校長の許可を得て氣仙沼高等小學校裁縫部を事務所に充て頃日同校講義室に於て會議を開き會則を議定したりと云ふ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

●貴女の友增刊の披露

本社發よ我親愛なる貴女諸君の朝夕なに伴ひ給ふべき友達にとて**貴女の友**と云ふ雜誌を發刊し聊か微力を盡さんとは心掛たりき夫る程に諸君の愛讀日一日より增加し今日に至ては既に數千部の多きを刷出するに至れり是れ世の進歩の然らしむる所とは云へ又諸君の愛讀あるにあらずんば決して斯る盛運を見るには至らざるべきなり然れども本社は未だ此に滿足せず進で增刊の擧を圖らんとする折しも亦貴女諸君の續々書を寄せて之を促がし給ふよ會せり依て本月より更めて五日十五日廿五日の**三回發行**とし記事を精撰し諸樣を吟味し滿く將に世の貴女諸君の良友たるよ恥ぢざるの好誌たらしめんとす江湖の貴女諸君幸に一層愛顧の命を賜らんことを希望の至に候也

●記載の事項は**貴女の友○家政○保育○學藝○叢談○論説○新報**の七欄とす

本紙代價左表の如し御注文の節は前金にて御申込被下度候

部數	一部	六部	十二部
前金	八錢	四十六錢	九十錢
郵税	一錢	六錢	十二錢

東京日本橋區本町二丁目一番地

發行所　東京教育社

明治廿年十二月

○クリスマス贈物品

蒔繪物○陶器○金物細工○其他

右仕入有之直段の義は極廉價に差上候間多少よ係はらず御用向仰付被下度候

東京京橋區銀坐三丁目廿一番地川岸通り

卍　萬家商店

●教育時論

第九十五號　明治二十年十二月五日發

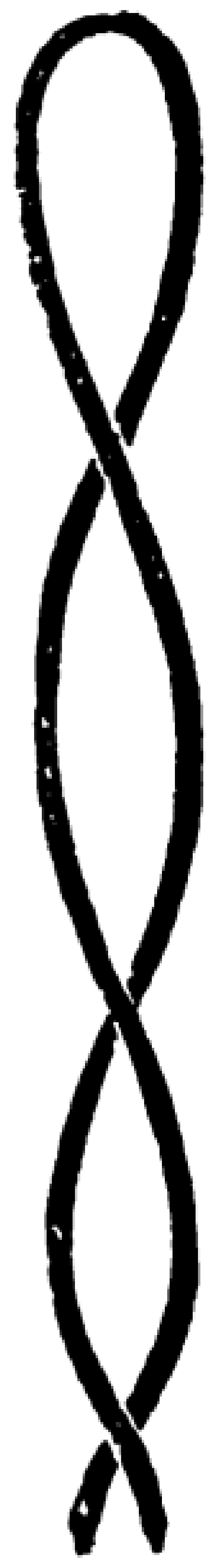
社説●國立教育を論ず○教育●小學校と相關排して技藝教育を論ず尋常師範學校の組織○各地方に實業學校を設置するの方案○學校參看上の心得○獨逸の育兒法○理科●應用物理學○驢原の植物○哲學●知覺の身躰的狀況○文藝●さかえらなきゝつも一枕の草紙にあらひて論けたるもの○小笠和傳(い和歌四首○數へ歌○彌附學術傳○內外雜纂●數十件

一册定價金五錢十部前金郵税共五拾八錢

東京下谷區練屛町十四番地

發行所　開發社

スパラルヘイヤピン



右ハ英國デュフテーロル會社の專賣にして是迄我國に舶來せし事なし故に今般右の會社と當店と特約を結び一手賣捌致候間全國の貴婦人方御購求あらんことを請ふ

大一打に付　拾三錢
中　同　拾弐錢

東京々橋銀坐一丁目

中村利吉

夜學會

晝間職業あり若くハ其他の事故ありて學問の隙を得さるもの、爲に更に**夜學會**方法を設くる左の如し

科目○讀書　算術　珠算
但有志者にハ英學の初歩を教ゆべし

時間○午後七時より九時迄

場所○靜岡屋形町英學校に於て　燈火費一ヶ月三錢其他一切費用なし

休日○日月曜日大祭日

右ハ本月十四日午後七時より開會す有志者ハ十三日迄に同所へ申し出すべし

靜岡キリスト教靑年會

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

沈沒畝傍艦乘組士官以下紀念碑建設廣告

曩に皇艦畝傍號の蹤を失するや官爲に船艦を派遣し該艦の航消或は漂流すべき通跡に當れる暗礁岩礁若くは砂州等に至るまで百方搜索の道を盡さる而して到處皆痕跡を留るなし是に於てか遂に該艦を亡沒と認定し乘員を死失と見做さる我儕思に該艦の亡沒する乘員諸子の死失する必ず非常の災難救ふ可らざるに出でゝ無限の悲境慘狀に陷りしや疑を容れさるなり而して海渺として水深く艦亡ひ人逝て其跡全く空し苟も皇國の人士にして之を聞者誰か痛んで惜まざるを得んや況や我儕軍人に於ては當時災難の猛烈なる諸子の必死盡力斃れて而して後止むの光景を想像して痛惜措く能はざるものあり乃ち海軍々人の結社なる水交社々長威仁親王殿下の依囑に懇り該艦の始末と遭難の姓名とを石に刻し之を永遠に傳へ且其祭典を行ふて靈魂を慰んと欲す冀くは同感の諸君金圓の多少を論ぜす此舉を贊成補助あらんことを依て左に遭難諸子の姓名及建碑の方法を併せて大方に報告す

死沒人名

海軍大尉 飯牟禮俊位
海軍大機關士 森友彥六
海軍上等兵曹 市村松甫
海軍上等兵曹 新庄憲雄
海軍機關師 佐藤專一郎
海軍船匠師 網谷幸吉
海軍機關手 古内松次郎

建碑義捐方法

一 御贊成の方は一人又は數人連合して御送金あるとも一口金拾錢以上たるべき事
一 義捐金は郵便爲替郵便切手代用御勝手の事
但切手代用は必ず二錢又は一錢の切手とす
一 宛名は東京芝公園地水交社内建碑會計委員とする事
一 御送金の日より三十日以內に受取證御入手無之時は右委員へ御照會可被下事
一 義捐人名及義捐金額を毎月一回新聞に廣告する事
但時宜に因り伸縮することあるべし

建碑委員

海軍大佐 兒玉利國
海軍大尉 玉利親賢
海軍大佐 鮫嶋員規
海軍大主計 岩井半吉
海軍少佐 田代郁彥
海軍少機關士 澤鑑之丞
海軍大尉 石田五六郎
海軍少主計 林武一

發兌

十二月三日 十日 十七日 廿四日 三十一日
一月七日 十四日 廿一日 廿八日
二月四日 十一日 十八日 廿五日
三月四日 十一日 十八日 廿五日

定價

一册。五錢 郵稅。一錢 (但府內無郵稅)
十册。四十八錢郵稅。十錢 (同前)
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し長篇半頁分の廣告を掲載する塲に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

一行 (廿七字詰) 一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社說の次に無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町巖々堂〇東京芝西久保櫻川町萬春堂〇東京神田區雉子町開々社支店〇同神田區佐柄木町東海堂〇同日本橋區新肴町良明堂〇同京橋區木挽町壹丁目萬字堂〇同本鄕區元富士町盤春堂〇同本鄕區春木町二丁目解明堂〇東京本鄕四丁目文藝堂〇横濱住吉町角田屋貞〇京都四條通小橋へ入澤集ツ堂〇同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード〇大坂備後町四丁目岡島支店〇仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部〇宮城縣仙臺大町木村文助〇尾張國名古屋本町石版舍〇出雲國松江新町盛進堂〇廣島縣大手町一丁目早速社〇長崎酒屋町虎與號〇江州彥根西內大工町新々堂〇相州小田原綠町石壽堂〇上州高崎田町燒平堂〇土佐國高知本町三丁目樂園堂〇熊本文明堂

發行所
東京京橋區日吉町八番地
本局 女學雜誌社
持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"Jogaku Zasshi."
Price 5 sen. By post yen 1.43 six months, yen 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8a Hiyoshi-chō Shinbashi, Tōkyō, Japan.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY